

参加者	Nguyen Thanh Quang
国際会議名	第44回日本発生生物学会年会
開催地	沖縄
期間	2011/05/18~2011/05/22
発表演題タイトル	Genetic analysis of Mi-2/NURD complex in transdetermination of <i>Drosophila</i> imaginal disc ショウジョウバエの器官改変頻度を上昇させる Mi-2/NURD 複合体の解析 Thanh Quang Nguyen ¹ , Tatsuro Minami ¹ , Hirofumi Furuhashi ¹ , Tomonori Katsuyama ^{1,2} , Yoshiteru Oshima ¹ , Shoichiro Kurata ¹ (¹ Grad.School Pharm.Sci, Tohoku Univ, ² ETH Zurich)

報告

2011年5月17日～21日、沖縄にて第44回日本発生生物学会が開催された。中国や韓国、台湾などのアジア諸国からの研究者が参加し、国際的な学会となっていた。本学会では、2件のレルチャー、127件の口頭発表、375件のポスター発表があった。講演会場は2カ所に分かれているが、どの会場もほぼ満席であり、聴衆で混み合っていた。また、参加者には学生の方が多く見られ、大変活気あふれる学会の様子を感じられた。



初日の **workshops** だけを除き、全てのシンポジウムと発表は英語で行われた。発表の所々を聞き取れなかったが、要約とスライドの読むことで内容を理解し、重要な情報を収集できた。Stanford 大学の Mathew Scott 教授の講演を聞くことができた。本講演の聴衆のお陰で、発生において非常に重要なシグナリング Hedgehog が脳発生や癌形成においてどのように働くかというメカニズムをより深く理解できた。口頭発表において、神経発生に関わる研究が多かったが、それに加えて昆虫の変態や哺乳類の四肢の形成、細胞分極、分化制御する分子機構に關与する研究もあった。多様な生物の研究や分子レベルから個体レベルまでの多様な研究の非常に新鮮で興味深い発表を聞くことによって、最先端の技術や最新の情報に触れることができ、自分に関連ある発表を聞くことにより、自分の研究についての意識を高めることができたように思った。また、発表後の質疑時間が短いにも関わらず、質問の数が多かったためほとんど時間がオーバーになってしまった。発表後も会場の外で続くセッション、連絡先を交換し、非常に活気な学会を実感した。

私は、本学会においてポスター発表者として参加し、はじめての国際学会なので非常に緊張した。ポスター発表は英語で準備したが、多くの日本の方が聞きに来て下さったため、つい日本語で説明してしまった。他大学の先生から私には考えつかない様々な角度からの質問やアドバイスを頂いた。自分とは異なる立場からの意見や考えを聞け、自分の研究に対するヒントを得ることができ、非常に有益な時間であった。様々な先生と話した上で自分が考え間違いあるいは勉強不足なところも発覚できた。また、英語で説明する自信がなくほとんど日本語に頼り、自分の英語力の乏しさが分かった。この学会の活気的な雰囲気を感じ、そして他の研究者の発表を聞くことによって、自分も今後の研究に対してより一層の努力をしなければならないと痛感した。

